

感謝と決意を胸に新たなスタート

町内3中学校の卒業式が3月9日に行われ、赤池中73人、金田中80人、方城中65人の生徒が旅立ちの日を迎えました。最後の制服姿での入場に、恩師や保護者は目を細め温かい拍手で歓迎。式典後、生徒は思い出の校舎で友人と言葉を交わし別れを惜しみながらも、それぞれの進路に向かって新たな一歩を踏み出しました。



↑ 周囲への感謝と旅立ちへの決意が込められた楽曲を卒業生が合唱(赤池中)。

↓ 表彰状とトロフィーを受け取った石谷さん(中央)と推薦委員など関係者の皆さん。



地域の絆づくりで石谷光信さんが受賞

地域の発展に貢献した個人や団体をたたえる「筑豊賞」の表彰式が1月28日に行われ、石谷光信さん(伊方)が表彰されました。石谷さんは野添地区で区長やグラウンドゴルフ愛好会の監督を務め、月に1回、4～12ページの会報をそれぞれ発行。地域間の積極的な情報共有による絆づくりが高く評価されました。

↓ 90歳との83歳差対戦も実現。思うように止まらないローラーに一喜一憂。



過去最多161組が頂点決める熱戦

地区予選を勝ち抜いた36チームによるカローリングの決勝大会が2月25日に金田体育館で行われました。毎年優勝チームが変わるハイレベルな大会は今回も白熱。好投には敵味方問わず称賛の拍手が送られ、終始熱気に包まれていました。**【結果】1位:赤池16・17区A 2位:金田SSC-B 3位:赤池16・17区E 4位:金田丸丸A**

↓ 修復を終えた純白の像を囲む関係者たち。像は正門近くに移設され、より近くで生徒を見守ります。



純白の像が修復終え登下校見守る正門へ

昭和29年に赤池中美術部顧問の故・久原弘先生(旧赤池町名誉町民)と部員により制作された「女生徒の像」。校舎裏で生徒と校舎を見守り続けてきた像が修復

作業を終え、2月23日に除幕式が行われました。「女生徒の像を守る会」の呼びかけに卒業生はじめ621人の支援が集まり、約4か月かけ修復。当時の部員の一人、世良公男さんと生徒会長の手で幕がとられると、美しく見違えた姿に周囲から歓声や感嘆の声が上がりました。

花見客を出迎える準備整う

毎年、福智山の中腹で春の訪れを伝えてくれる虎尾桜。開花前の3月24日、ボランティアグループ「虎尾桜を心配する世話人会」と「福智みどりの会」のメンバー15人が周辺整備を行いました。桜周辺の雑木や雑草を除去し、立入禁止箇所にロープなどを整備。訪れた人が安全に桜を鑑賞できるよう願いを込めました。



↑ 齢600年以上を数える虎尾桜。開花シーズンには毎年数千人が訪れます。

↓ トークの合間に童謡や創作曲など8曲を披露。美しい歌声で会場を包み込みました。



歌と語りで伝えた親子の愛

3月10日に地域交流センターで住民福祉講座が開かれ、子育てシンガーの高橋亜美さんが「うまれてきてくれてありがとう」をテーマに講演しました。我が子を亡くした経験などから「わたしたちは奇跡の塊の存在」と、命が当たり前ではないことを強く訴えた高橋さん。約200人が涙をぬぐいながら真剣に耳を傾けました。

山 上野焼展をふくちのちで開催 地直樹氏寄贈の貴重な古上野を展示

江戸期の上野焼72点が北九州市小倉北区の歯科医・山地直樹氏より寄贈されたことを記念した展覧会が「ふくちのち」で3月2日から開幕しました。上野焼開窯当初の「釜の口窯」から幕末まで稼働した「皿山本窯」までの4窯を中心とした貴重なコレクション。伝統を映した器が圧倒的な存在感を放っていました。



↑ 400年以上の歴史と伝統の変遷を器そのままに伝えた記念すべき特別展。